

# 平成30年度 第7回人権教育学級

日時：平成31年1月10日（木）9：50～11：50

場所：別府市役所 5F大会議室

演題：子どもと人権

～子育て支援を通して観えたこと～

講師：地域子育て支援センター「にじのひろば」 代表 村田 広子 さん

## ●講演概要

### 1 はじめに

---

#### <自己紹介>

- ・ 大学で留学生を対象に日本語を教えた経験があり、学生たちから多くを学んだ。
- ・ 特に、親友をなくした韓国の学生の「今日の一日は、親友が欲しかった一日だ。私は親友の分まで頑張りたい、一日を無駄にできない」という言葉に強く感動した。
- ・ 留学生に、どうして日本に来て学びたいのかと尋ねると、「自分の国を豊かにし、留学資金を出してくれた親に孝行をしたい。」という答えが返ってきた。
- ・ 夢をもちながら日々生活を送っている学生たちを見て、生きる価値を学んだ。



<講師の 村田 広子さん>

### 2 子育て支援の現状 ⇒ ホームスタート

---

#### ○子育て支援について

- ・ 7年間、市役所の児童家庭課（現・子育て支援課）で、相談員として、児童虐待や妻へのDVの対応、数々の子育てしている親の相談などを受けた。

その7年間の間に、子どもを育てることに悩みや困りを抱えている親と出会い、「もっと近くで支援をしたい」という思いが強くなり、市内光町に「子育て支援センター・にじのひろば」を開設した。ここには、未就学の子どもを育てている親子がやってくる。

#### ○キーワードは届ける支援＝ホームスタート

- ・ ホームスタートを始めて6年。これは、子育て中ママの寄り添い支援のシステムである。
- ・ 大分県では、18市町村中12市が行っている。今年から大分市が始めるので13市になる。



ホームスタートの上映  
＜画面に流れるホームスタートの様子＞

### 《 ホームスタートとは 》

- ・1週間に2時間程度、ボランティアさんがやってきて子育て中のお母さんをサポートする。病院に行く、買い物をする、いっしょに家事をする（協働）、お母さんの話を聴く（傾聴）、などの支援を行う。キーワードは、「**傾聴と協働**」で、お母さんの悩みや困りを共有する。
- ・ボランティアさんは、8日間の研修を受けている。
- ・ホームスタートは、60年以上前にイギリスで始まった。日本では、2009年から始まった。

※子育てに困りがあると訪問する。別府市では、今年度122件目の対応をしている。

## 3 違いを受け入れる社会づくりへ

### ○成長や個性に合わせた支援

- ・ママは、パパより一年早く親になる自覚ができる。妊娠中、気をつけるお母さんが多くなった。体をかばう、食べ物に気をつける、たばこを吸わない、髪の毛を染めないなど。
- ・韓国のお母さんは、髪の毛を染める年齢やピアスをする年齢を決めている。体に関するものは、「何歳以上になったらしてもいいよ」と。ボーダーがある。
- ・ピアスもヘアダイも「体に危険性があり責任が取れる年齢までもうちょっと待ってね」という。その伝え方が大事。
- ・相談会で、子どもが落ち着かないという話をよく聞くけれど子どもが落ち着かなくなるような声かけをしているお母さんが多い。例えば、「急いで」を連発すると、多動系の子どもができてしまう。「急いで」ではなく、「ゆっくりしてね」「しっかりみててね」と言う方がよい。「ゆっくりだとバスに間に合わないんです」というけれど、「バスに間に合うこと」と「しっかり食事をとるという意識を育てること」のどっちが大事かということを考えてほしい。逆に時間を決めて早めに準備させる、家事を前倒しして準備しておくなど、工夫するといい。
- ・子育ては、「自分は、こうやって育てられた」という思いが反映されがち。私はこう育てられたから逆にこうしてみようという切り替えもおもしろい。
- ・いろんなものが反映して、親のコピーのような子どもが育っている。一度立ち止まって自分の子どもは、多動傾向があるか、こだわりがあるか見つめてみるとよい。
- ・子どものこだわりの強さを心配するお母さんがいるが、私は、こだわりはとてもよい特質の一つと捉えている。こだわりがあって何が悪いのかと思っている。例えば、今まで、大きく広汎性発達障がい（ASD）の範ちゅうにあったアスペルガー症

候群のことがよく言われているが、こだわりは大事にしていと思う。こだわりがあって成功している人たちも多くいる。こだわりすぎる時にどうするのか対応は必要だが、こだわりは、伸ばそうという感じでよい。

- ・多動の子どもは、「教室の前2列目までに座らせてくれませんか」と担任にお願いするとよい。なぜかという、アイコンタクトをとるのに後ろではできない。
- ・アスペルガーの子どもは、教室の端っこでも大丈夫。なぜかという、こだわりが強く、いろんなものに目がいかない。子どもの座る位置も担任に相談してみるとよい。

#### 4 子育ての秘訣（事例を通して）

---

##### ○子育ての声かけ

- ・子どものできることをしっかり理解してあげる、しっかりほめることが大事。叱るという時は、「その基準は何？」と尋ねてみる。自分にとってのはがゆさでなければいいが。  
子どもを叱る基準は「命」、道路に飛びだすと車にひかれる、友だちに危害を加える、など、人の命が基準というのが分かりやすい。
- ・「おもちゃを散らかして片付かない」とよく聞くが、これは叱ることではなくて、教えること。おもちゃのなおし方を教えるとよい。箱を作って、言葉や絵、写真をはる、大きな箱を作って入れさせる、または、いっしょに片付けるなど・・・片付け方の方法を教える方が子どもは素直にきいてくれる。そして、「すごいねえ、できたねえ」と褒めてあげてほしい。
- ・叱る時は、未来形で叱るとよい。「こうするとよかったのにねえ」「こうするとうれしいなあ」と。子どもはお母さんが喜ぶことが大好き。「あー、荷物が重たい。持ってくれると嬉しいなあ。」という、子どもは張り切って持ってくれる。それを「何でこうしなかったの。」と過去形で言ってしまうと、とてもいびつな子どもになってしまう。
- ・過去形で言っているのは、褒める時。「すごかったね」「よくやったねえ」「これはできたね」など。特に、できた時は、しっかり褒めてほしい。叱る時は、未来形で、褒める時は、過去形でということをお頭の隅に入れておいてほしい。
- ・自分の弱さも時には見せる、いつも強いママ、えらいママでなくてもいい。親は、いつかは子どもに追い越される。
- ・わが子の子育て中にもいろいろな思い出をつくったが、子どもたちの中に楽しい思い出は点在している。辛い思い出も残るけれど、豊かな思い出が残るといい。あったかい子育てができるとうよい。
- ・子どもを育てることをお金に換算すると何百万、何千万という仕事になる。働く以上のお金がかかる。皆さんのやっていることはすごい。だれも褒めてくれないけれど、自分を褒めてあげてほしい。

## ○マニュアルがない実践の子育て

- ・毎日、休みなく脈を刻んでくれる命の源の心臓にありがとう、いろんな部分にありがとう、耳もよくきいてくれてありがとうなど、自分の体に感謝すると、人にもやさしくなれる。日野原先生は、自分の体に感謝していた。
- ・べっぷ子育てガイドブックの紹介・・・子育てのバイブル  
いろんなサポートが載っている。これに載っていないようなことは、私たちのような現場で頑張っている人たちに相談してほしい。持っていなければ是非もらってほしい。市役所の健康づくり推進課、子育て支援課などに行ってもらいとよい。これに、ホームスタートのことも載っているので、是非、ホームスタートを利用してほしい。

## ○ホームスタートの積極的利用を

- ・利用の具体例をいくつか紹介する。

## ○にじのひろばの活動紹介・・・スライド上映

※年間3000人ぐらいの親子が利用している。

- ・ママのランチ交流会 ・わらべ歌 ・ベビーマッサージ
- ・達人と話そう（今回は、オリンピック選手を育てた田中琴乃さんのお母さんを招いた。お母さんの中に子育てのイメージがしっかりとあった。）
- ・BA-BAの手作りおやつ講座は、おばあちゃんの子育てのヒントを伝授する
- ・こころとからだの発達相談会では、発達障がいをもつ子どもたちのリラックス動作法・・・いろいろな取組をしながらお母さんの困りや気づきなどいろいろなことを感じていただくための講座がある。
- ・ホームスタート・ワールドワイド（子どもの保護のための活動規範）の紹介と確認

## ○頭の体操（数字遊び）

- ・こんなことで困っていると声をあげることの大切さ。いろんなツールを使って、みんなが知ることが大事。数字遊びも子どもとの会話に使ってほしい。

## ○親子の会話づくりの大切さ

- ・私は、こういう子育てをしたよとあとで言えるように。大変だけれど、絶対に成果は出る。
- ・いつも文句を言っていると文句をいうことしか覚えられない子どもになる。
- ・やさしい声かけをしているとやさしい言葉が言える子どもになる。どういう子どもに育てたいかは皆さんにかかっている。
- ・おじいちゃんやおばあちゃんに冷たい言葉を言っている人がひよっとしていたらおなじようにされる。自分が種を蒔くのだから、いい種を蒔いてほしい。困ったらいろんな人に相談して助けをもらってほしい。
- ・人は、一人では生きられない。頼っていい。助けてもらっていい。そういう所を見つける、そういう人に出会う努力はしてほしい。

## ●班の話し合い

○子どもの反抗期での悩みを誰かに相談したいけれど誰にするかいいの？特に高学年や中学生などの相談をどこにしたらいいか分かりません。→ 村田さんアドバイス

★支援センターにじのひろばの対象者は未就学児だけど、相談は何才でも年齢に関係なく受けている。小・中・高・大の相談を受けている。小・中の学校関係の場合は、野口ふれあいセンターの中にある別府市教育センターも相談窓口となっている。相談は、メールや電話などでも可能。助けを求めてよい。安心して相談してほしい。



<質問に答える村田さん>



<班での話し合い>

○子どもを叱る基準について考えさせられました。今までは、感情的に怒っていたが、良い叱り方を知ったのでそうしようと思いました。

○ホームスタートを初めて知りました。子どもの声かけは、過去形と未来形の使い方を知ったので実践していきたいです。

○「急いで」と、子どもによく言っていた。「ゆっくり、しっかり」と声かけしていけるように自分に余裕をもちたいと思いました。

○一人で悩んでいるお母さんに寄り添ってあげることは、とても良いサポートの仕方だと思いました。

○頼ってもいいということ、そして、ホームスタートのようなボランティアがあることを初めて知りました。「褒める」は過去形、「叱る」は、未来形ということも。親が病気になった時、預けられるところがあるのを知らなかったが、これからは、子育てガイドブックを活用していきたい。知っているのと知らないとは違うということも分かりました。

○もっと早くにホームスタートを知っていたらよかった。サポートなしでの子育てだったのでこのサポートには驚きました。

○以前、夜泣きがひどいということ相談すると、「子育てだけなら頑張る」と言われました。気持ちが落ちているときは支援センターに相談するエネルギーも落ちていて相談できなかったです。→ 村田さんアドバイス

★メールや電話などで相談が可能なので、お顔が出せない時は、メールや電話などで相談してほしい。にじのひろばは、大人の相談も受けている。子育てをしている人、例えばおばあちゃんからも相談がある。遠慮なく相談してほしい。助けを求めてほしい。

- 自分だけで頑張らなくてもよいということが分かりました。子育ては、一人ではできないということも。
- 子どもは、母親が好きということのを再認識できました。
- ホームスタートのことを周りに教えていきたいと思います。
- 豊かな思い出を残せる親になりたいと思いました。
- 「急いで」という言葉をついつい使ってしまう。何をしても「急いで」「急いで」と言ってしまう。反省です。
- 子育てサポートのことを知っていたらもっと良かったが、時間や自分に余裕がなくてその支援のあることを調べることでできなかつたです。自分が余裕をもてば子どもにも優しくなれるし、子どもに接したあと後悔もしなくなると思います。
- 産後、ホームスタートを利用したことがあり、久しぶりに村田さんにお会いできてうれしかったです。声かけの大事さを再確認しました。
- ホームスタートの制度に制限や規約があるのが残念です。
- この場に来るといろんな話が聞けてためになります。講演後、家に帰っても心が和んでいます。今日は、村田さんの話が聞けてよかったです。
- ホームスタート、いいなあと思いました。早く知っていたらよかったです。子どもが小さい頃、児童館などにいろいろなママさんの話が聞けていたことを思い出しました。
- ホームスタートを子育てに関わる全ての人に知ってもらい利用してもらえたらいいです。
- 叱る時は、未来形。ほめるときは過去形ってことで伸ばせていけたらいいなあと思いました。ほめる時に具体的に言うと、子どもは自分のことをよくみていると思うと思います。
- 子育てについてほめると言うけど、どこまでほめていけばよいのか難しいです。
- ホームスタートでビジターの活動に興味はあるけど、自分にできるのか不安です。意見してしまいそうです。
- 自分の子育て中にホームスタートのことを知っていたらよかったです。買い物・美容室に行く時間がほしかった。料理も教えてほしかったです。
- ホームスタートという制度があることを知らなかつた。今日は、具体的に内容を知ることができて良かった。たくさんの人に知って利用してもらえたらよいと思います。
- 言葉・発信・受け止めの大切さを学びました。つい、「いそいで」の声かけをしてしまいます。
- 子育てガイドブックの大切さを再確認しました、ファミサポは、突発的な時も利用できるといいですね。
- 今、必要な情報をどうやって探すか、子育てガイドブックを手に入れたい。手に入れてもじっくり見ていなかつたと反省しました。
- ホームスタートの存在がとても有難い。残念なことは、成長した子どもの姿を見せてあげられないがどうしたらよいですか。⇒ 村田さんアドバイス

★ボランティアさんとにじのひろばで連絡をとり再会することが可能。

○思春期男子の母への愛がより大きくなっているが、思春期の男の子への対応の仕方はどうあればよいですか？ ⇒ 村田さんアドバイス

★スキンシップを大切にする。母親はひるまない。子どもから学校に来ないでと言われても「参観にはいくよ。」と、宣言する。してはいけないことは、「してはいけません」「だめです」ときちんと子どもに伝える。合わせて手で×を出すなどサインを出していくとよい。子どもに不安を与えない。反抗してしゃべれない時も、紙に書いて貼る。親のつぶやきは、未来形でつぶやくと、子どものシフトチェンジに成功する。忙しい時は、背中で声を聞き、時に手を止めて対応する。自分の話をよく聞いてくれているという安心感を子どもに持たせることが大事。笑顔がなくなる、目を見なくなるのは、危険のサイン。下を向いて歩くようになると要注意。たばこも子どものいる所では吸わないでほしい。

○「急いで」という言葉をよく使い、叱ることがあるが、これからはどうすればよいですか。⇒ 村田さんのアドバイス

★未来形で叱る、「こうしたら良いよ、こうしてくれたらうれしいなあ」・子どもはお母さんが喜ぶことが好き。過去形は、「よくできたね」と褒める時に使うとよい。自己肯定感につながる。

○毎日、怒ってばかりなので、今日の話聞いて気をつけようと思いました。

○いつもせかしている。時間を優先すべきなのか、食事を残さず食べさせることが大事なのか迷うことがあります。今日話を聞いて、あまりお菓子を食べさせないようにしたり、お腹が空いたら小さいおにぎりをあげたりと、ある程度、時間を決めて行動できるようにしようと思いました。

○「自分が蒔いた種は、戻ってくる」ということが心に残りました。言葉がけに気をつけようと思いました。



< 班の発表・全体交流 >